

河川改修事業の再評価項目調書（案）

事業名（箇所名）	ひのがわ 日野川直轄河川改修事業							
実施箇所	鳥取県米子市、南部町、伯耆町、日吉津村							
該当基準	再評価実施後一定期間（5年）が経過している事業							
事業諸元	一般改修（堤防整備、護岸整備、河道掘削、堰改築等） 管理延長 ひのがわ 日野川 L=17.0km、法勝寺川 ほっしょうじがわ L=10.9km							
事業期間	日野川直轄河川改修事業（整備期間30年）：平成28年～令和27年							
総事業費（億円）	（整備期間30年） 約127			残事業費（億円）		（整備期間20年） 約53		
目的・必要性	<p>・日野川は鳥取県西部に位置し、その源を広島・島根の県境に位置する三国山に発し、途中印賀川や俣野川等の支川を合わせ、下流で法勝寺川と合流し、日本海（美保湾）に注ぐ、流域面積870km²、幹川流路延長77kmの一級河川である。日野川本川の河床勾配は下流部を除けば1/130～1/190程度と、中国地方でも有数の急流河川である。また、流域の約90%を山林が占めており、日野川から流送された土砂で形成された扇状地と弓浜半島に流域内の人口・資産が集中している。</p> <p>・日野川下流の米子市は、鳥取市に次ぐ鳥取県第二位の人口を持ち、県西部の中核を担う街である。日野川下流部は日野川から流送された大量の砂で形成された扇状地と海岸で形成されているため、中流部で氾濫が発生すると氾濫流は下流市街地に及ぶことから甚大な被害となる恐れがある。また、法勝寺川は固定堰等の横断工作物による流下能力の阻害により洪水時にせき上げによる水位上昇が発生する恐れがあり、特に下流左岸堤防が決壊した場合には氾濫流が米子市街地にまで到達する。</p> <p>・昭和以前にも度々大きな洪水被害を受けており、昭和20年9月には昭和以降最大規模の洪水を経験している。また、近年でも平成23年9月、平成30年9月に浸水被害を伴う洪水が発生している。あわせて、法勝寺川下流では、内水被害も頻発しており、早急な対策が望まれている。</p> <p>（洪水実績）</p> <ul style="list-style-type: none">・昭和 9年 9月洪水（室戸台風）：浸水家屋2,390戸・昭和20年 9月洪水（枕崎台風）：浸水家屋2,247戸（※1）・昭和47年 7月洪水：浸水家屋3,086戸・平成18年 7月洪水：浸水家屋 33戸・平成23年 9月洪水：浸水家屋 25戸・平成30年 9月洪水：浸水家屋 19戸 <p>（※1：県内全体 それ以外は流域内）</p> <p>（災害発生時の影響：想定氾濫区域内）</p> <ul style="list-style-type: none">○人口：約88,500人○世帯数：約34,300世帯○重要な公共施設等：米子市役所、米子警察署、米子消防署、日野川河川事務所 JR山陰本線、JR伯備線、JR境線、山陰自動車道、米子自動車道○災害弱者関連施設：米子医療センター、鳥取大学医学部 附属病院 米子老人福祉センター、米子養護学校							
便益の主な根拠	年平均浸水軽減世帯数 447 世帯（当面想定している事業 1 世帯） 年平均浸水軽減面積 89 ha（当面想定している事業 1 ha）							
事業全体の投資効率性	B:総便益	（億円）	C:総費用	（億円）	B/C	B-C	EIRR	基準年度
全体事業	総便益	2,853	総費用	94	30.5 51.8（社会的割引率1%） 42.1（社会的割引率2%）	2,760	201%	R2
残事業	総便益	52	総費用	41	1.3	11	5.3%	R2
当面想定している事業（整備期間5年）	総便益	8	総費用	7	1.1	1	4.7%	R2
感度分析				全体事業（B/C）			残事業（B/C）	
	残事業費（+10% ～-10%）			27.8～33.7			1.2～1.4	
	残工期（+10% ～-10%）			28.8～29.6			1.2～1.3	
	資産（-10% ～+10%）			27.4～33.5			1.1～1.4	

事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後最大洪水（日野川本川：昭和20年9月（枕崎台風）、支川法勝寺川：昭和34年9月洪水）と同規模の洪水が発生した場合でも、浸水被害を防止する。 浸水世帯数 3,441世帯 ⇒ 314世帯（当面想定している事業⇒398世帯） 浸水面積 717ha ⇒ 136ha（当面想定している事業⇒192ha） 被害額 966億円 ⇒ 77億円（当面想定している事業⇒83億円）
社会経済情勢等の変化	<p><地域状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年には観測史上最大規模の洪水が発生しているため、住民の治水に対する関心は高く、河川改修への要望も強い。 <p><事業に関わる地域の土地利用、人口、資産等の変化></p> <p>【主要自治体（米子市）指標】</p> <p>○人口：0.99倍（147,317人／149,313人）〈R2数値／H27数値〉</p> <p>内高齢者率：1.04倍（28.7/27.6）〈 〃 〉</p> <p>○世帯数：1.04倍（62,134世帯／59,890世帯）〈 〃 〉</p> <p>○事業所：0.97倍（6,917事業所／7,138事業所）〈R3数値／H26数値〉</p> <p>○従業者：1.01倍（69,078人／68,163人）〈 〃 〉</p>
事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2016（H28）年3月14日日野川水系河川整備計画（国管理区間）策定。 ・整備計画対象期間30年を目標に事業を遂行している。 ・現在、小町・岸本地区（日野川）や法勝寺地区（法勝寺川）等において流下能力確保のための堰改築や築堤を実施中である。
事業の進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのところ事業は順調に進捗。地域住民からは引き続いての河川改修事業を切望されており、関係機関並びに地域との協力体制も構築されていることから、今後も円滑な事業進捗が見込まれる。
コスト削減や代替案立案等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術・新工法を活用するとともに、関係機関等との事業調整、建設発生土の有効利用を図り、コスト削減に努める。 ・施設点検や維持補修の効率化、施設の長寿命化等のライフサイクルコストを意識し、施設整備を行う。
対応方針	継続
対応方針理由	<ul style="list-style-type: none"> ・上述より、日野川直轄河川改修事業については、治水安全度向上の必要性、費用対効果、地元の協力体制等の観点から事業実施が妥当。 ・今後の詳細な設計段階において、さらなるコスト削減を図るとともに、環境にも配慮して事業を進め、より一層の事業効果の発現に努める。
その他	—